記者発表資料

令和元年７月30日
東北地方整備局
岩手河川国道事務所

台風豪雨想定に備えた災害対策現地本部設営と通信訓練を実施します
～8月1日「防災通信訓練」を実施～

台風の影響で増水しやすい出水期を迎え、台風接近に伴う豪雨災害を想定した防災通信訓練を実施します。豪雨災害などが発生し、自治体職員だけでは対応が難しい場合には、いち早くTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）が被災地に出向き、被災状況調査、災害対策機械による応急復旧など早期復旧に向け自治体の支援を行っています。

本訓練は、対策本部車、衛星通信車などによる災害対策現地本部の設営と被災現場を各種移動通信機器により接続し、画像情報などを共有するための通信回線の設営や被災した自治体への各種画像配信、整備局災害対策本部とのテレビ会議などの防災通信訓練を行い、発災時の支援体制の強化を図ります。

1．訓練日時

令和 元 年 8月 1日（木）10:00～15:15

※ 当日の現地訓練の取材については、13:00 から雫石町役場にて対応いたします。

2．訓練想定

- 豪雨により、国道46号橋場地区竜川が増水し、一部家屋浸水が発生。
- 落雷の影響で雫石町全域が停電となり、役場通信機能が喪失。
- 雫石町役場に派遣したリエゾン情報により画像提供と通信確保の支援要請を受けた。

3．訓練場所および訓練概要

① **橋場防災ステーション（被災想定現場）**：岩手郡雫石町橋場上野山
- 衛星通信車を用いた被災現場からの画像送信訓練

② **雫石町役場（災害対策現地本部）**：岩手県岩手郡雫石町千刈田5番地1
- 対策本部車（災害対策現地本部）の設営訓練
- 衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT）を用いた通信回線の設営訓練
- 5GHz帯無線アクセスシステム（i-RAS）を用いた通信回線の設営訓練

③ **岩手河川国道事務所（災害対策支部：3F 災害対策室）**
- 各種画像提供訓練（岩手県および雫石町役場へ各種画像提供）

④ **東北地方整備局（災害対策本部：12F 災害対策室）**
- テレビ会議システムを用いた双方向通信訓練（雫石町役場⇔東北地方整備局）

4．訓練参加者

東北地方整備局、岩手河川国道事務所 北上川ダム統合管理事務所、三陸国道事務所 南三陸国道事務所、雫石町役場、災害協定提携会社

※ 当日の気象条件等により、訓練を延期もしくは訓練内容を一部変更する場合は、岩手河川国道事務所ホームページでお知らせします。http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/

＜発表記者会＞宮城県政記者クラブ、岩手県政記者クラブ、東北電力記者会、東北専門記者会

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 防災室

宮城県仙台市青葉区本町3－3－1 仙台合同庁舎B棟 TEL：022－225－2171（代表）

防災情報調整官 垣原 清次 （かきはら きよつぐ）（内線２１２４）

防災室長 武田 滋生 （たけだ しげお） （内線２１５１）

国土交通省 岩手河川国道事務所

岩手盛岡市上田四丁目2－2 TEL：019－624－3131（代表）

事業対策官 飯田 学 （いいだ まなぶ） （内線２０６）

防災課長 上林 喜久男（かみばやし きくお）（内線２８１）

防災通信訓練　位置図



防災通信訓練　スケジュール

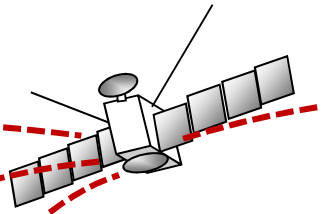
時間	対　応	場所	訓練種別
10:00	防災通信訓練開始		
10:10	リエゾン派遣訓練	②	派遣・移動訓練
10:40	災害対策用機器派遣訓練(移動)	①	
12:00	災害対策本部車設営完了	②	
13:00	衛星通信車設営訓練	①	
	Ku-SAT設営訓練	②	設営・接続訓練
	公共BB設営訓練	①	
	i-RAS設営訓練	②	
13:15	防災ヘリ発進(仙台空港)		
14:20	被災現場映像配信訓練	①	
14:30	ヘリサット映像配信訓練	①	映像配信訓練
14:50	被災自治体(雫石町)とのテレビ会議	②	
15:15	訓練終了		

防災通信訓練　全体概要図



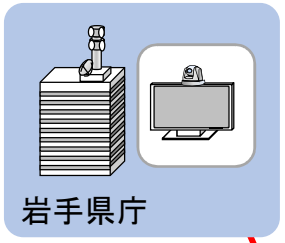
映像、音声
（ヘリサット）

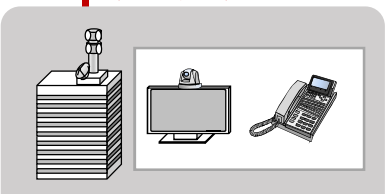
映像、音声
（衛星）

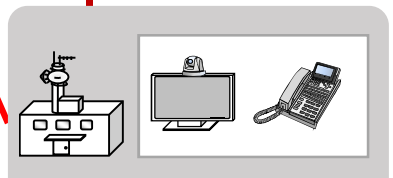




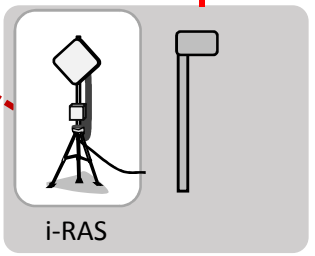
映像、音声、データ
（マイクロ）





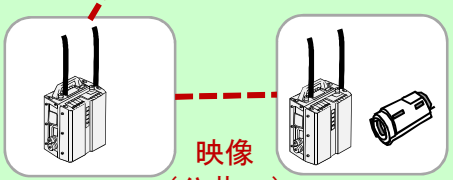


映像、音声、
データ
（光ファイバ）

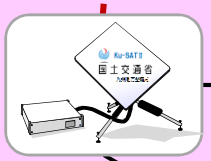


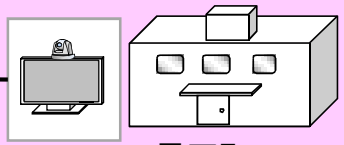
映像、音声
（Ku-SAT）



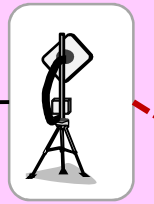












映像、音声
データ
（i-RAS）

①災害現場（橋場防災ステーション）

・衛星通信車及び公共BBを連携させた映像送信訓練

②災害対策現地本部（雫石町役場）

・対策本部車（災害現地対策本部）の設営訓練
・Ku-SAT、i-RASを用いた通信回線の設営訓練
・ヘリサット映像配信訓練
・被災自治体（雫石町）とのテレビ会議

防災通信訓練　防災通信機器の概要



・防災ヘリコプター（みちのく号）に搭載したカメラで撮影した映像を衛星経由で伝送するシステムです。
・被災地の状況を途切れること無く、安定的に対策本部などへ配信することができます。

（ヘリサット）ヘリコプタ搭載型衛星通信装置



・アンテナの対向通信で約30km程度離れた地点から、映像や音声の配信を可能とする装置です。
・現地対策拠点に執務室と同様の環境を構築できます。

i-RAS（5GHz帯無線アクセスシステム）



・災害現場で指揮を行う車両で、災害現地対策本部として機能します。
・情報収集のため各種通信機器を装備しています。
・車内でテーブル等を設置し10名規模の打合せが可能です。

災害対策本部車



・約5km程度の範囲を移動しながら映像や音声を伝送可能な装置です。
・障害物による遮蔽等に強いため、車両での移動が困難な災害現場において移動しながらの映像伝送が可能です。

公共BB（公共ブロードバンド移動通信システム）



・衛星通信装置を搭載した車両で、災害現場の映像を送受信したり、通信を確保したり、災害現場の状況把握に利用します。

衛星通信車



・持ち運びできる衛星小型画像伝送装置で、災害現場において衛星回線を用いて映像を伝送することができます。

Ku-SAT（衛星小型画像転送装置）



・i-RAS、公共BB等による自営回線を構築することで、災害時にもテレビ会議の設営を行うことができます。

テレビ会議システム